

北九州市発達障害者支援地域協議会
令和2年10月12日

学齢期の支援

子どもと家族に対する多職種チーム支援
～スクールソーシャルワーカーの活動を通して～

北九州市教育委員会
指導部指導第二課
スクールソーシャルワーカー
角田 かおり

本日の流れ

1. スクールソーシャルワーカーの概要
2. スクールソーシャルワーカーが対応する発達障害ケース
3. 子どもと家族に対する多職種チーム支援

1. スクールソーシャルワーカーの概要

S S W（スクールソーシャルワーカー）とは

○S S Wとは、教育領域において「学校」を基盤にソーシャルワーカー（相談支援）を展開する専門職です。

○児童生徒を対象者とし、不登校、虐待、非行、暴力行為、発達障害関連などの事象を「児童生徒の教育や生活、成長・発達が保障されていない状況」と捉え活動を行っていきます。

○また、不登校などの事象を児童生徒自身の課題として焦点化するのではなく、その環境（学校・家庭・地域など）との関係性の中で発生するものと考え、状況改善のためのアプローチをしていきます。

S S W活用事業について①

● スクールソーシャルワーカー活用事業（H20年度～）

※文部科学省 「いじめ対策総合推進事業」

● 趣旨

- 1) 不登校、暴力行為、児童虐待など、児童生徒の問題は複雑多様化
- 2) 家庭、友人関係、地域、学校等の環境問題が絡み合っている
- 3) 学校の枠を越えて、関係機関等との連携をより一層強化
- 4) コーディネーター的な存在が、教育現場において求められている

S S W活用事業について②

● S S Wの職務内容

- ①問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
- ②関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
- ③学校内におけるチーム体制の構築、支援
- ④保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
- ⑤教職員等への研修活動 等

<文部科学省「S S W活用事業」（H20年度予算案資料）より抜粋>

北九州市では、平成20年度より2名体制でスタート

2. スクールソーシャルワーカーが 対応する発達障害ケース

S S Wの発達障害への対応の推移

16%増

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
対象者数	399	445	557	568	589	689
いじめ	3	0	1	3	1	7
不登校	214	264	281	312	346	412
暴力行為	17	22	43	24	10	29
虐待	14	24	38	18	21	30
非行・不良行為	44	33	39	11	14	16
家庭環境問題	353	445	528	504	526	591
発達障害関係等	138	224	246	232	244	328
健康・保健関係等	57	53	53	67	52	83
その他	31	31	136	91	115	181
合計	871	1096	1365	1262	1329	1677

34%増

構成比の推移

	H27	H28	H29	H30	R1
対象者数	445	557	568	589	689
いじめ	0.00%	0.10%	0.50%	0.10%	1.00%
不登校	59.30%	50.40%	54.90%	58.70%	59.70%
暴力行為	4.90%	7.70%	4.20%	1.60%	4.20%
虐待	5.40%	6.80%	3.10%	3.50%	4.30%
非行・不良行為	7.40%	7.00%	1.90%	2.30%	2.30%
家庭環境問題	100%	94.70%	88.70%	89.30%	85.70%
発達障害関係等	50.30%	44.10%	40.80%	41.40%	47.60%
健康・保健関係等	11.90%	9.50%	11.70%	8.80%	12.00%
その他	7.00%	9.50%	16.00%	19.50%	26.20%
合計	1096	1365	1262	1329	1677

SSWが対応する発達障害ケース

- ・ 特別支援学級（学校）在籍児童生徒を支援したケース：140件
→全ケースの20.3%
- ・ 「発達障害関係等」は全体の約20%を占める
- ・ 通常学級に在籍する発達障害関係の課題を抱える児童生徒へのSSWの関わりの増加

関係機関との連携

	H30	R1	前年比
子ども家庭相談コーナー	1345	1218	90.55%
子ども総合センター	660	546	82.72%
生活保護課	649	475	73.18%
病医院	1045	861	82.39%
少年支援室	120	111	92.50%
児童関係施設	486	1252	257.61%
特別支援教育相談センター	178	86	48.30%
保健福祉課地域保健係	208	200	96.15%
少年サポートセンター	57	111	194.73%
他専門機関 その他	162	166	102.46%
保健医療関係 その他	175	162	92.57%

増加率の高い関係機関

1. 児童関係施設

児童福祉施設⇒放課後等デイサービスとの連携増加

2. 少年サポートセンター

発達課題がある児童生徒の非行への対応

3. 他専門機関 その他

高齢者障害者相談係、障害者福祉事業所等

3.子どもと家族に対する多職種チーム支援

発達障害ケースへの対応

①保護者、本人と面談

- ・意向の確認と今後についての提案

②学校への助言

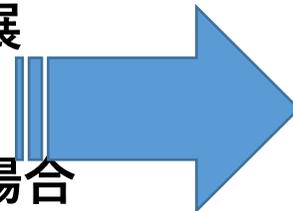
- ・管理職、担任、特支コーディネーター、養護教諭 等

③関係機関との連携

- ・情報共有
- ・保護者や本人に同行

※教育相談や就学相談以外の支援が必要な場合

- ・保護者と学校や保護者間の確執に発展
- ・家庭環境等の影響が懸念される
- ・その他問題行動の要因と考えられる場合

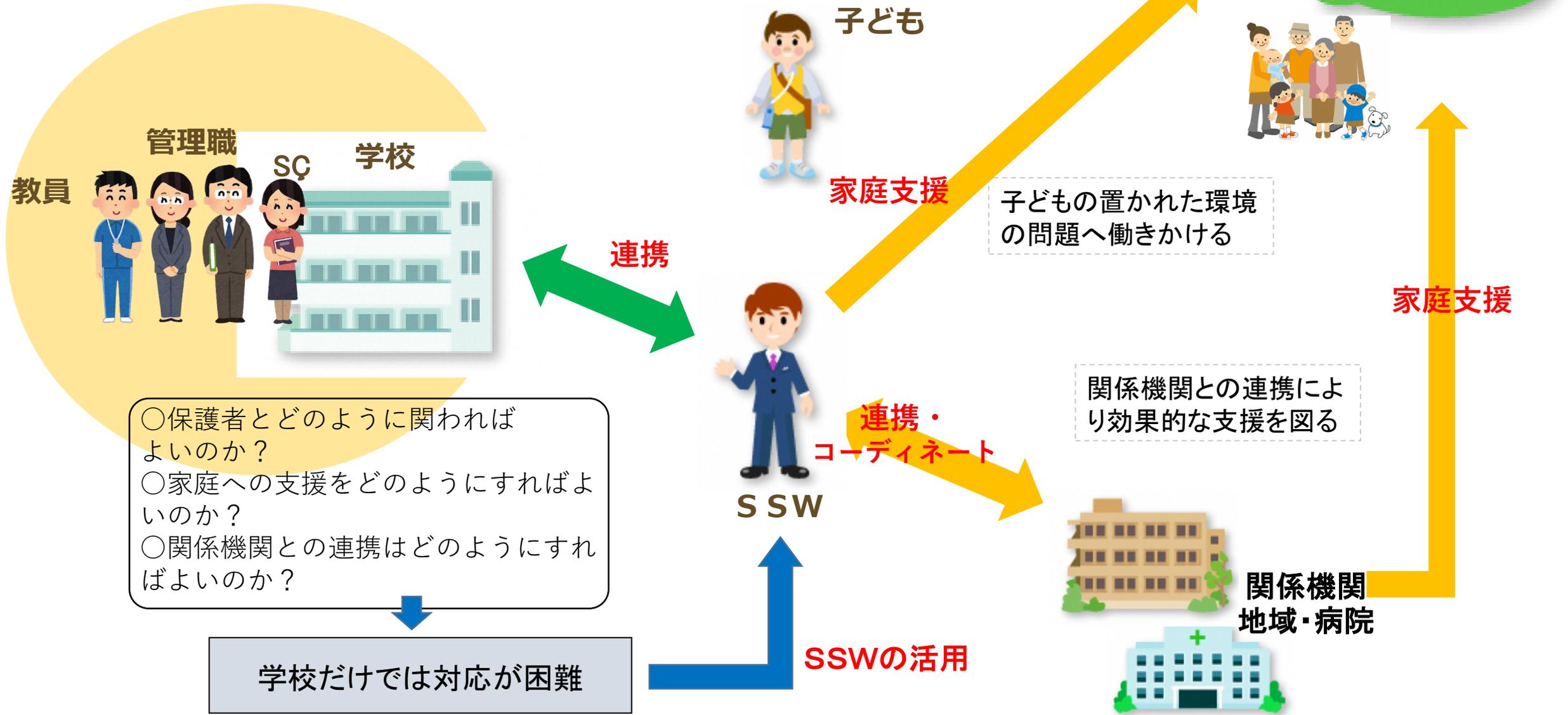


子どもと家族への支援

発達障害課題へのSSWの機能

- ① 顕在化している問題の背景にある子どものニーズを発見、代弁する
- ② **学校と保護者の共通理解を促す。また、協働関係作りのための目標を設定し、合意形成を図る**
- ③ **関係機関への繋ぎ、及び、連携を図り、子どもを支援するためのネットワーク作りを行う**
- ④ 子どもによりよい発達を保障し、自立を支援する

SSWの子どもと家族に対する多職種チーム支援



- 保護者とどのように関わればよいのか？
- 家庭への支援をどのようにすればよいのか？
- 関係機関との連携はどのようにすればよいのか？

学校だけでは対応が困難

子どもの置かれた環境の問題へ働きかける

関係機関との連携により効果的な支援を図る

S S Wが考える子どもと家族に対する 多職種チーム支援の課題

- 発達障害課題を抱える事案へのS S Wの果たすべき役割において明確なものがない
- 学校と関係機関との連携課題（思いと視点の相違がある場合）
- 校内での多職種チーム支援と校外を含めた多職種チーム支援
- 多問題家庭への支援の困難さ
- 発達障害＝医療モデルではない
- 多職種で共有できるツールがない
- S S Wは義務教育期間の子どもへの関わりに限られること

S S Wが考える子どもと家族に対する 多職種チーム支援の課題の解決に向けて

- 多職種で共有できるツールの作成
- 多職種チーム支援（校内・校外）の体制構築
- チーム支援を実施する際の調整、コーディネート役
- 学齢期においては教育と生活の両方の保証が大事であることを支援者が認識すること
- 人が変わっても支援内容が変わらない関わりを実施（適切な引継ぎ）
- 学齢期後を視野に入れた支援方法の検討

SSWのツール

アセスメントシート～面接等による事前調査～
(秘) アセスメントシート～面接等による事前調査～

児童生徒 (ケースNo. 1111) 在籍 K小学校 学級 3年1組 担任教諭 P教諭		エコマップ(児童生徒を中心とした人間関係図)																																																									
フリガナ	性別 男 生年月日 H12年1月1日 (満9歳)																																																										
氏名 A 男	自宅 〇〇〇 携帯 △△△																																																										
住所 (〒111-1111) 〇〇県G市〇〇区〇〇町1-1																																																											
相談主訴 母親の養育放棄に起因する不登校	相談種別 <input checked="" type="checkbox"/> 養護 <input type="checkbox"/> 非行 <input type="checkbox"/> 育成 <input type="checkbox"/> 障がい <input type="checkbox"/> その他																																																										
ジェノグラム(家族構成及び家族関係を示した家系図)		生活歴																																																									
		男性 女性 対象児(二重線) 昭和44年生まれ 現在38歳の男性 S44～ 平成12年に86歳で肝硬変のため死亡 離婚 別居 結婚 交際・同居 m:HT0 LT:H7 【推記の意味】 d=divorce s=separation m=marriage LT=Living Together																																																									
児童生徒の生活状況・相談に至る経緯		児童生徒の出席等状況																																																									
・H18.5月頃～H19.9月末まで、母親からのネグレクトでP児童養護施設へ措置。 ・措置解除後、T市へ。本児は当校に転入学(2学年2学期)となる。 ・2年3学期の終わりに10日程欠席。その際、家庭と連絡がとれないことがあった。 ・3年になり、それ程目立つような欠席は見られなかったが、先日、自宅の部屋で火遊びをしていたという事実がわかり、それを機に登校が減少。担当教諭が家庭訪問など行い対応するが、改善されていない。 ・母親が日中～夕方、夜～朝まで仕事をしている。当初、夜間仕事時は保育所に子をあずけていたが、最近は保育所を利用していない様子。その間、弟と二人で夜を過ごしている状況。 ・朝は、友人Tが迎えに行き、その流れで登校できることが多い。		①年次別欠席状況 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>欠席日数</th> <th>在籍校</th> <th>担任教諭</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>0日</td> <td>N小・O小</td> <td>W/Y</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>15日</td> <td>O小・K小</td> <td>Y/P教諭</td> </tr> <tr> <td>年</td> <td>日</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		年	欠席日数	在籍校	担任教諭	1年	0日	N小・O小	W/Y	2年	15日	O小・K小	Y/P教諭	年	日			年	日			年	日			年	日																														
年	欠席日数	在籍校	担任教諭																																																								
1年	0日	N小・O小	W/Y																																																								
2年	15日	O小・K小	Y/P教諭																																																								
年	日																																																										
年	日																																																										
年	日																																																										
年	日																																																										
児童生徒の家庭環境		②2008年度出欠等状況 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>欠席</th> <th>遅刻</th> <th>早退</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>0</td> <td>16</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>5</td> <td>20</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>3</td> <td>21</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>1</td> <td>14</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>12</td> <td>20</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>7</td> <td>22</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>28</td> <td>113</td> <td>27 0</td> </tr> </tbody> </table>		月	欠席	遅刻	早退	4月	0	16	5	5月	5	20	8	6月	3	21	2	7月	1	14	2	8月				9月	12	20	3	10月	7	22	7	11月				12月				1月				2月				3月				合計	28	113	27 0
月	欠席	遅刻	早退																																																								
4月	0	16	5																																																								
5月	5	20	8																																																								
6月	3	21	2																																																								
7月	1	14	2																																																								
8月																																																											
9月	12	20	3																																																								
10月	7	22	7																																																								
11月																																																											
12月																																																											
1月																																																											
2月																																																											
3月																																																											
合計	28	113	27 0																																																								
児童生徒の学校生活状況		普通の関係 親しい関係 対立・反発的關係 希薄な関係 権威・権力的関係 働きかけの方向 同一集団(家族・機関) <input type="checkbox"/> 普通の関係 <input type="checkbox"/> 親しい関係 <input type="checkbox"/> 対立・反発的關係 <input type="checkbox"/> 希薄な関係 <input type="checkbox"/> 権威・権力的関係 <input type="checkbox"/> 働きかけの方向 <input type="checkbox"/> 同一集団(家族・機関)																																																									
①学習面 ・算数が苦手。 ・絵を描くことが得意。		②生活面 ・友人Tと仲が良い。 ・コミュニケーションは普通にとることが出来る。 ・自分の考えをしっかりと発言できる。																																																									
身長 140 cm / 体重 40 kg		備考欄 																																																									

様式考案者: 奥村賢一(福岡県立大学)
様式考案者: 奥村賢一(福岡県立大学)

ご清聴ありがとうございました

ご清聴
ありがとうございました

